



平成29年度全国学力・学習状況調査結果について

学校長 駒田 一敏



深秋の候。保護者の皆さまにおかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は、本校の教育活動にお力添えをいただき誠にありがとうございます。

旭丘中学校区では、ご存じのように、子ども達の「社会的自立」を目指し、9年間を見通した小中一貫教育を推進しています。なかでも中学校時代は「人生の基盤づくり」の大切な時期と捉え、生徒一人ひとりが自身の将来を見つめ、志ある生き方をしてほしいと願っています。

さて、本年4月に中学9年生を対象に実施されました全国学力・学習状況調査について、本校生徒の検証結果のまとめができましたのでご報告いたします。すでに先月に9年生には個々の結果を配付していますが、学校全体の傾向をお知らせし、今後の「家庭教育」に生かしていただくようお願いいたします。



【本校の調査結果について】

1 教科に関する調査結果（概要）

- ◇ 今年度は、国語と数学の2教科による全国一斉調査の実施となりました。本校では、国語・数学ともに基礎・基本の力は定着しており、県や全国と比較しても「極めて良好」な項目が多い状況です。
- ◇ 今年度においても基礎的・基本的な知識・技能を活用する力も、県や全国と比較して十分に「活用できている」状況です。さらに、「無回答率」が低く、学習に対して粘り強く取り組む姿勢が伺えます。

国語科

★優れている項目

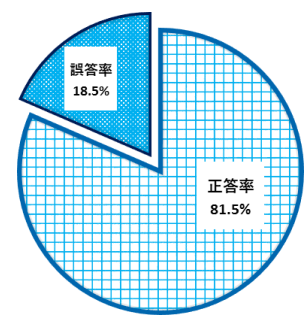
- 「文意に即して漢字を正しく読む、書く」に関する設問の正答率が高いです。おの漢字検定の取り組みが効果を上げていると思われます。(例)組織のキボを大きくする。雨で運動会がエンキになる。覚悟を決める、等
- 古文に関する出題では、現代語訳に関する正答率が高いです。(例)『徒然草』の中の句「あやしう」を訳す。
- 登場人物の描写に注意して読み、その文章の内容を理解したり、文章の表現の仕方について自分の考えを持つ問題は、国、県の正答率を大きく上回っていました。普段から「生活の記録」や道徳、総合的な学習の時間で文章を書く習慣がよい影響を与えていると思われます。

- 授業中の話し合いの場や、生徒会専門部活動や教科班活動など、学校生活のあらゆる場面で、自分の考えを他の人にわかりやすく伝える機会が与えられています。そこで自然に表現力や語彙力を高めるような経験を重ねていることが、よい結果につながっていると思われます。

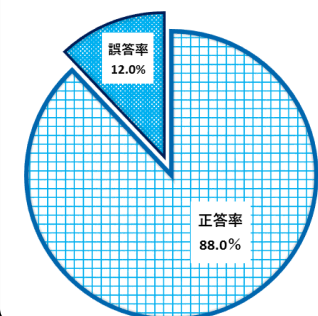
★課題となる項目…国語B：主として活用から

- 文学的な文章中の比喩表現を理解し、自分の感じたことを書く問題の正答率が低調でした。スマホ等のネット上の文章を読む機会が多い反面、読書の時間と量が不足している影響と思われます。これからは、多様な表現を持つ文学作品に触れる機会を増やし、読解力を高めましょう。

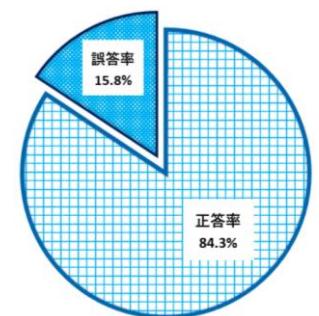
文意に即して正しく漢字を書く



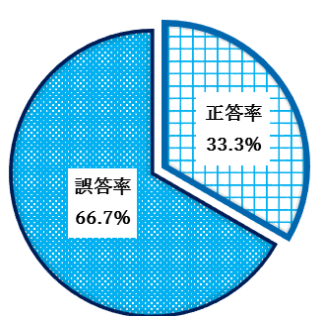
古文と現代語訳とを対比させて内容を捉える



場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する



比喩を用いた表現から、自分の感じたことを書く

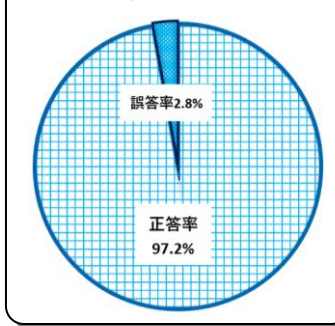


数学科

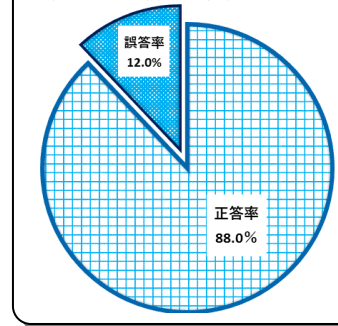
★優れている項目

- どの領域も基本的な内容は身につけていました。特に数学的な技能の正答率は76.4%と高かったです。本校の生徒の授業態度は落ち着いており、基礎基本が定着できています。また、おの検定を活用し、授業冒頭のウォーミングアップ学習等の反復学習のため加減乗除を用いた式や文字式の計算正答率が高いと考えられます。
- 一次関数のグラフや二元一次方程式が表すグラフの読み取りに関する正答率が高かったです。少人数による授業の成果と考えられます。また、扇形の弧の長さを求める問題や度数分布に関する問題もよくできていました。

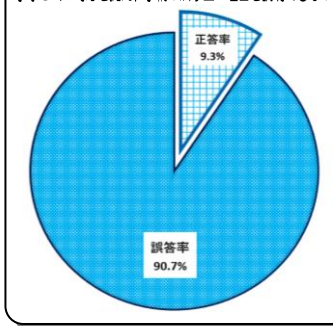
3月25日を基準に3月22日を負の数で表す



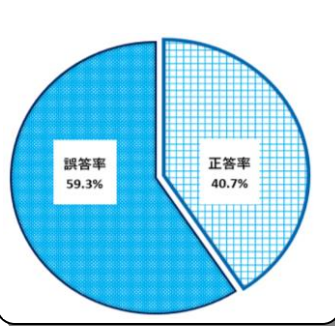
一次関数のグラフの傾きと切片の値を基に式をつくる



事象と式の対応を捉え、事柄が成り立つ理由を説明できるか



数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理できる



2 生活習慣や学習教科に関する調査結果（概要）

★概ね良好な項目

- 毎日同じ時間の起床、朝食等の生活習慣については「十分良好」な状況です。また、「学校の規則を守っている」「人の気持ちがわかる人間になりたい」「人の役に立つ人間になりたい」「理由の如何にかかわらずいじめはよくない」の質問に「はい」と答えた生徒の割合は高く、本校生徒の規範意識の高さが伺えます。
- 本校の多くの生徒は、「仲間を大切にできる意識」や仲間と協力してものごと到最后まで取り組み「うれしさ」や「達成感」「自己有用感」を感じながら充実した生活を過ごしています。また、数年低調であった「将来の夢や目標を持っていますか」の問いに75%の生徒が肯定しています。8年生のトライやる・ウィークや立志式の取り組みが影響していると思われます。

★やや不十分な項目

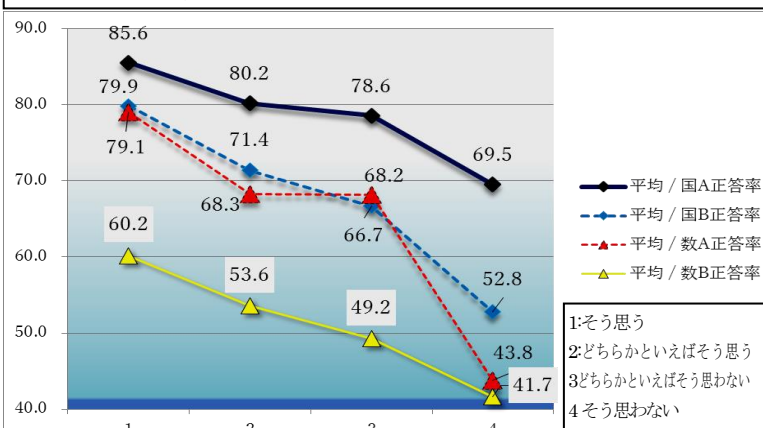
- 家庭でのスマートホンや携帯の使い方に対する意識は、「旭丘スマホ宣言」等を通じて年々高まっています。しかし、家庭での時間の使い方においては、1時間以上テレビを視聴したり、ゲームをしたりする生徒の割合が増加しています。家庭学習を計画的に取り組み、家庭学習の効果を持続させるためにも家庭での時間の使い方が課題となっています。

3 今後の指導について

◇学校の取り組みと今後の対策◇

- ◎ 国語では、漢字の「読み・書き」などの基礎的な学力の充実を、日々の漢字練習や「おの漢字検定」の取り組みを通して図ります。また、普段から読解力や表現力を高めるため、総合的な学習の時間や道徳など、国語以外の授業でも「文章を書く」機会を増やします。
- ◎ 数学では、今後も少人数学習を活用し、個別学習の充実を図りながら、基礎基本の定着や答えだけでなく理由などを説明できる教材開発や機会をつくり、論理的な思考力や応用力が身につく授業を目指します。
- ◎ ICT機器の活用や班別討議の機会を積極的に取り入れ、「魅力ある授業」「分かる授業」づくりに取り組み、主体的・対話的な深い学びを目指します。

1・2年生のときに受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で自分たちで立てた課題に対して自ら考え、自分から取り組んでいきたいと思いますか。



総合学習の授業で、主体的に課題解決を図ろうとする生徒の正答率が、そうでないとした生徒の約1.2~1.8倍高いというクロス集計です。課題意識を持ち、自ら考える生徒ほど正答率が高くなっています。